表４　平成24年度の食糧用小麦の需給に関する見通し

（単位：万トン）

総需要量		A	561
国内産	国内産食糧用小麦の流通量	B	73
	米粉用国内産米の供給量	C	5
	計	D＝B＋C	78
外国産食糧用小麦の需要量		E＝A－D	483
外国産食糧用小麦の備蓄数量			
	23年度（見込み）	a	97
	24年度（目標）	b	93
	増減	F＝b－a	△ 5
外国産食糧用小麦の輸入量（政府からの販売数量）		G＝E＋F	478

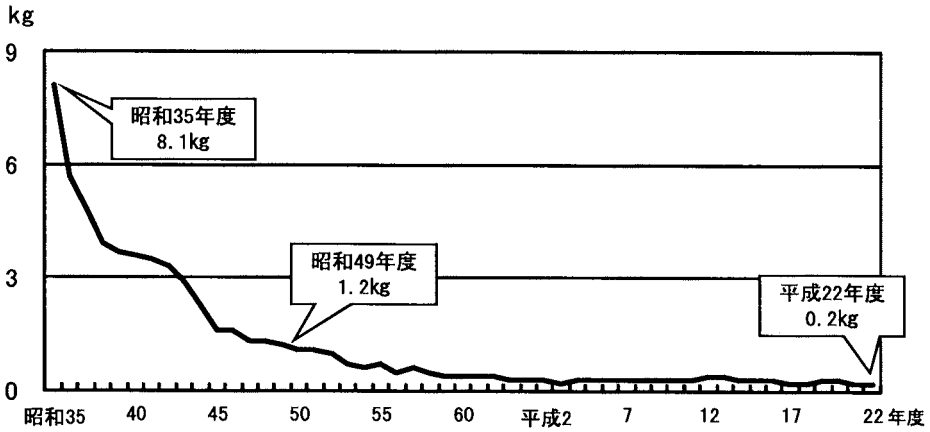
注：四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。

２－１　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量

食糧用大麦及びはだか麦の１人当たりの年間消費量は、概ね0.2～0.3kgで推移しています(図２)。

このため、平成24年度の食糧用大麦及びはだか麦の総需要量は、近年の平均的な需要量になると見込まれることから、過去５年（平成19年度から平成23年度まで）のうち、オーストラリアの不作の影響により需要量の増減があった平成19年度及び平成20年度を除いて算出した３か年の平均需要量である33万トンと見通します（表５）。

図２　食糧用大麦及びはだか麦の消費量の推移（１人１年当たり）



資料：農林水産省「食料需給表」

注：平成22年度の数値は、概算値である。

表５　食糧用大麦及びはだか麦の総需要量の推移

（単位：万トン）

年　　度	総需要量	対前年度比
平成19	24	45%
20	38	158%
21	33	88%
22	33	98%
23見込み	32	98%
24見通し	33	102%

注：総需要量には、生産者団体とビール会社との契約栽培により供給される国内産ビール大麦は含まない。

２－２　国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量

⑴　国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量（当年産の大麦及びはだか麦のうち、生産者から実需者に引き渡された数量）

平成24年産の国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量は、平成23年８月の民間流通連絡協議会において報告された平成24年産の作付予定面積に、10ａ当たりの平均収量（二条大麦348kg、六条大麦299kg、はだか麦295kg）を乗じ、さらに、食糧用供給割合（二条大麦55.9%、六条大麦83.7%、はだか麦95.3%）を乗じて、11万トンと見通します（表６）。

⑵　国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量（前年産と当年産の食糧用大麦及びはだか麦のうち、当年度内に市場に流通した量）

平成24年度の国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量は、平成24年産の国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量に、過去の供給実績から見通される年度内供給比率を乗じ、さらに、平成23年産麦の在庫量を加えて、10万トンと見通します（表６）。

表６　国内産食糧用大麦及びはだか麦の流通量の推移

（単位：万トン）

年産	食糧用大麦及びはだか麦の供給量 ①	うち年度内供給量 ②	年度内供給比率 ②／①	次年度繰越（在庫） ①－②
平成19	11	5	45.9%	6
20	13	5	36.8%	8
21	10	3	25.0%	8
22	8	2	21.4%	7
23見込み	10	3	27.7%	7
24見通し	11	3	27.7%	
		24年度流通量見通し		10

注：１）国内産食糧用大麦及びはだか麦の供給量は、は種前契約に基づき、生産者から需要者に引き渡された数量である。

２）四捨五入の関係で、計と内訳が一致しないことがある。